

子ども5人に1人が貧困

ユニセフ報告書

国連児童基金(ユニセフ)は6日、欧州連合(EU)と経済協力開発機構(OECD)に加盟する40カ国で、子どもの5人に1人が貧困状態にあるとする報告書を公表しました。全体では前回調査より減少したも

40カ国を調査

の、一部の国では大幅な増加もみられました。

2019〜21年の調査に基づきまとめられた報告書によると、世帯収入がその国の平均の60%未満で暮らす子どもは21年末時点で6900万人以上。12〜14年の前回調査と比べると8%減少しましたが、英国では19・6%、フランスでは10・4%

増加しました。日本は、前回調査から18・7%減少し、貧困率は14・8%でした。

ユニセフの調査担当者は「こうした子どもたちのほとんどが十分な栄養、衣服、学校用品や家と呼べる暖かい居場所なしに育つことになりかねない」と、貧困がもたらす心身への影響を指摘。子どもに関する社会的保護の拡充など、必要な対策を講じるよう各国政府に呼び掛けました。

(時事)